

第4回登米圏域会議

【日時】令和7年1月16日（木）10時00分から11時30分まで

【場所】登米合同庁舎2階 203会議室

【委員からの主な意見】

（1）第6期みやぎ観光戦略プランの最終案

①全般

- 施策の柱「戦略2」について、労働者確保、人手不足はバス業界においても深刻な問題である。バス保有台数が14台で運転手は10名、そのうち60代が7名という中で何とか回している状況があり、安全面には十二分に配慮しているが、5年後どうなるかは非常に不安。プラン作成の際には、バス業界に関する内容についても考慮いただければと思う。
- プランそのものはよくできている。これらの具体的な広報、取組については、専門的な知識を持った方の意見を聞きながら進めていくと良いのではないかと考える。
- 人手不足については、登米市内でもなかなか学生が採用できないと聞いている。高校生インターンを多く受け入れることで、地元企業や市の仕事に積極的に触れてもらい、教育委員会とも連携して小中学生など小さい時期からの郷土愛醸成に努めていきたいと考える。

②数値目標

※特に意見無し

（2）圏域の施策の方向性及び取組

- 登米圏域への誘客に向けては、登米市の他にはない良いところを観光客目線で掘り起こし、発信していく必要がある。
- 近年は登米在住の外国人技能実習生もおり、その方々が帰国された後も、登米圏域の情報を発信していただいたり、懐かしんで再訪していただけるよう、特に若い方々が中心となった地元住民による交流などの取組も有効と考える。
- 集客が見込まれる平筒沼の桜を始めとした、季節的なイベントをもっとアピールしてもいいのではないかと。
- 登米市に住んでいる人が登米市の魅力を知らなさすぎる現状がある。住んでいる人が登米の観光コンテンツを知る機会・取組があると良いと思う。
- 登米市内周遊ツアー等の企画により、ある程度宿泊も含め稼働すると思われるが、売込みを如何にしていくかが課題。専門家チームを設けるなどして売込みを積極的に進めることで、外国人向けの認知度も向上するのではないかと。
- 海外の方は体験型の旅行を希望されるケースが多いと思うので、能舞台での能や神楽を定期的で開催することで、旅行会社と連携して海外の方を呼び込むような内容ができるのではないかと考える。
- 登米市内のイベント、スポーツ大会等を増やすのも効果的。日帰りが多い印象だが、合宿などには補助を出したりするのも良いのではないかと考える。

- 水かぶりなどの伝統行事や登米能などについては、人口減少が進む中、海外の方に体験していただくコンテンツとするためにも、継承していく人材について考えていく必要がある。
- 登米に来訪していただくためには、如何に登米の魅力を発信するか、知ってもらうための情報発信を、地域を飛び出して展開していくことが必要である。
- 登米市は「県内で農畜産物が1位」という大きな魅力があるが、情報発信がなかなかできていないと感じる。方向性及び取組にも記載があるが、登米市でも、有機農業拡充に向けた取組を積極的に推進しているところなので、農泊とグリーンツーリズムと絡めた施策を、ぜひ進めていっていただければと思う。
- 登米市では、国の事業である「対日理解促進交流プログラム」における取組を行っており、海外の学生に農泊を体験していただくなどしているが、このような教育旅行を国内外問わず多く受入れ、長くお付き合いをしていくことで、農泊だけでなくホテルへの宿泊にも広まっていくよう進めていきたい。
- 登米市は食の宝庫であり、観光と物産によるガストロノミーツーリズムも推進していきたい。市内にはお酒の蔵元もあるので、食とお酒のペアリングも進め、オルレも含めた既存イベントや観光資源と食を結びつけながら推進していきたいと考える。